

(様式 12)

氏名(本籍) 鈴木 亮(茨城県)
学位の種類 博士(歯学)
学位記番号 甲 第327号
学位授与日 2016年3月14日
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第1項該当者)
学位論文題目 舌小帯短縮症の構音障害と咀嚼障害に関する研究

論文審査委員 (主査)教授 渡部 茂
(副査)教授 村本 和世
(副査)教授 天野 修
(副査)教授 藤澤 政紀

論文内容の要旨

舌小帯短縮症の治療には小帯切除が高頻度で適応されているが、術前の機能的診断はほとんど行われていない。本研究は同疾患(望月の分類1度)を有する小児を対象にその診断基礎を確立するために、言語評価および、舌小帯切除前後での咀嚼能率と咀嚼中の舌骨上筋群の筋活動量について検討した。その結果、単語検査、会話の観察、単音節検査ならびに文章検査を言語聴覚士と共に行った言語評価では、12名中小帯非切除群8名、定期的言語管理群3名、切除群1名であった。言語評価とは異なる11名を対象に、咀嚼能力測定用グミゼリーによる咀嚼能率、同時に咀嚼中の舌骨上筋群の筋活動電位を測定して、小帯切除前後の値を比較した結果、有意差を認めた者は3名のみであった。また咀嚼能率と筋活動量の変化とは一致せず、小帯切除による明瞭な変化は認められなかった。筋活動量を咀嚼前、中、後期に分けて術前術後を比較したところ、各期とも一致して有意差を認めたのは3名であった。望月の分類1度の舌小帯短縮症においては、構音障害、咀嚼能率及び舌骨上筋群の筋活動量に及ぼす影響は小さいことが示唆された。

論文審査および試験結果の要旨

本研究の咀嚼検査は、舌骨上筋群の筋活動量を指標に行った初めての研究であり、今後の研究の基礎となるデータを提供していると判断された。

本学大学院歯学研究科歯学専攻 鈴木亮に対する最終試験は、2016年1月26日、主査 渡部茂教授、副査 村本和世教授、天野 修教授、藤澤政紀教授の4名により主論文の内容および専攻学術に関し、口頭試験をもって実施し合格と認めた。また語学試験は、大学院入学試験時の外国語試験の結果をもって合格とした。よって申請者 鈴木亮の本論文は、博士(歯学)の学位論文に値するものであり、鈴木亮は博士(歯学)の学位を授与されるに値するものと判断した。